

学園だより

若桜町立若桜学園

学園だより NO. 2

発行 令和3年5月27日

縦割り班活動が始まりました

校長 小林 俊 介

若桜学園では、全校の児童生徒を色別の4つの班(緑、赤、青、黄)に分けた縦割り班をつくり、それぞれの色別班の中にさらに1～3班の3つの班をつくっています。今年の場合、全校児童生徒数が122名で、色別縦割り班が12班(4色×3)ですから、1年生から9年生までで構成する1つの班が10人くらいになっています。

5月7日(金)に行われた全校遠足では、この色別縦割り班に分かれて氷ノ山でクイズラリーをしました。氷ノ山自然ふれあい館「響の森」を発着点として、地図を片手に設定されたポイントを回り、そこで出された課題をクリアしながら



進んでいきました。川の水の温度を手を入れて測ったり、イモリの足の数を観察して答えたりするなど、氷ノ山の自然や生き物に関するものや、山にあるものでしりとりをしたり、みんなで大縄跳びをするようなものもありました。これらの課題を縦割り班で協力して解決していくことで、異学年でまとまり協力していくことを学んでいったように思います。

この縦割り班活動は、全校だけでなくいろいろなところで取り入れられています。前期ブロック(1～4年生)では、4年生がリーダーとなってこの縦割り班で昼休みに遊ぶことがあります。また、前・中期(1～7年生)で掃除時間に縦割り班で外掃除をすることもあります。

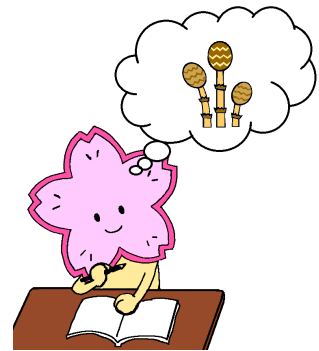
昨年度は、感染症対策のために多くの活動が制限され、1学期はほとんどこの縦割り班活動ができませんでした。そのため、小中一貫校の特徴である縦のつながりがなかなかつくれず、本校が今まで積み上げてきた教育活動が十分にできませんでした。しかし今年は、感染症対策についても科学的な見地により昨年度とは変わってきており、十分な対策をしながら教育活動が徐々に進められるようになってきました。

全校遠足での縦割り班活動では、上級生がリーダーとしてのやりがいを感じ、児童は上級生の姿に憧れいつかは自分もリーダーになることを自覚し、一人一人が楽しみながら成長したように思います。

令和3年度の若桜学園は、新しい生活様式を踏まえた学校の教育活動を模索し、若桜の子供達の健やかな成長に向けて頑張っていきたいと思えます。

全校俳句の取り組み

若桜学園では、全校の児童生徒で俳句を作っています。本年度は、四季に合わせて全部で四回作る予定です。その第一回目となる春の俳句に、二、九年生が取り組みました。次の夏の俳句からは、いよいよ一年生も挑戦します。各学年の春の優秀作品を紹介します。



五年生

おめでとう まってましたよ 新入生
つくしんぼ まっすくのびて せいくらべ
チューリップ 一年生を おでむかえ

福岡 恋色

瀬戸 奏美

森岡 幹太

六年生

あちこちに 散り風に舞う 桜たち
ふわふわと 野原一面 蝶の羽
菜の花が 一面にさき じゅうたんだ

柿坂 誉

君野 佳那

桑原 瑠奈

七年生

花見する 家族の心 満開だ
町全体 ピンクを色づけ 山桜
風がふき 桜の花びら カーペット

福岡 心葉

吉田 悠人

津村 桃汰

八年生

前向きな 思いをのせる 春風に
つくしんぼ 真っ直ぐ未来を 見つめてる
授業中 ほおをこするは 春の風

金谷 愛琉

加島 悠生

山根 颯太

九年生

桜の木 見上げた先に 青ピンク
真夜中に 夜桜照らす 月明り
コロナ禍で リモートでする 花見かな

木下 未唯

野口 奈央

兵頭 樹

二年生

つくしさん によきによきによきと せいくらべ
さくらがね ひらひらゆれて かぜにのる
わかくさは きれいなみどり 春になる

松本 慧宏

平口 稀子

前住 怜

三年生

ブランコで 大空つかめ あと少し
風ふいて さくらの花びら おにごっこ
妹と 桜の道を 登校だ

小林 央季

川東 忠義

尾崎 遥斗

四年生

菜の花に 見とれてしまい ちこくだよ
つくしんぼ 食べられるかな 不安だよ
ベランダに なかよくならぶ チューリップ

岡田 龍河

平口 竜ノ介

中本 然